

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2013年4月27日号

131号

NPO 法人

「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

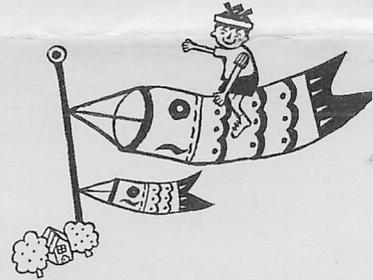
FAX 045-562-5991

毎年恒例となった行事ですが...

地域交流と私たちの想い

今年は急に暖かくなったり、冷え込んだり... 気候不順ではありますが、自然の営みは、こともなげになげで春爛漫です。

いつの間にか5月の声をきくようになりました。この季節になると、あちこちで地域交流バザーが行われ、私たちもいそがしくなります。



第25回活動ホーム「しもだ」バザー

資金作りから地域福祉の広がりへ

□その始まりは...

間もなく、デイサービスの場、地域活動ホーム「しもだ」では恒例の地域交流バザーが行われます。開設当初から、家族たちも含め、ボランティアさんたち総勢300名余のスタッフで取り組む大きな事業となります。今年はまだ25回目。5月19日にむけ準備中です。

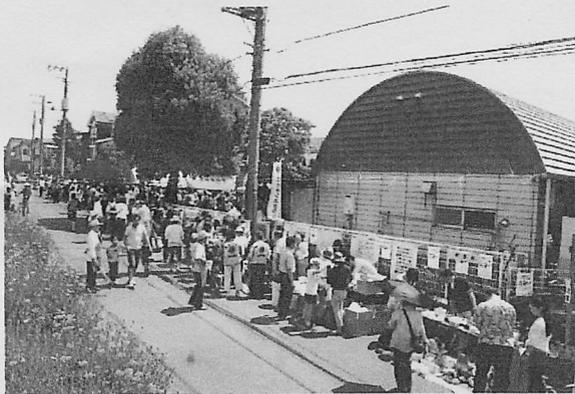
平成元年の開設当初は、横浜市からの補助金が光熱水費を賄うこともでき

↑ 活動ホームしもだのバザー会場

ない程度（年間130万円）だったので、やむなく地域を挙げて支援していただいたのが、ことのはじまりでした。

ここ13~4年前までは、職員もほとんど手伝わずにやっていたのですから、親たちのバイタリティーがしのべれます。

何よりも地域の方たちが、まだなじみの薄かった障害者たちの活動を“何とか協力してやりたい”という気持ちでまとまり、準備か





めがねの声

■大震災の時、障害者は.....

勉強会で、2年前の東北大震災の映画「逃げ遅れる人々」をみました。震災があつて今年はまだ2年目になりますが、早く普通の生活にもどりたいたいという気持ちが感じられました。そのあとまた友達から、貸していただけだったので2回見る事ができて、2年たつて初めて、障害者の震災の時の様子を目でも知ることができました。

こちらの私たちには「もう2年か、あつという間だ」と思えるのですが、まだまだたいへんだと思います。母とで、いま被災地の障害者たちは、どう暮らしているのか知りたいねといっていたところでした。

映画では、私が知らなかった様子も見ました。

避難できて助かった人も、避難所では4日間も車いすの上で寝る時も起きていても座ったままずっと過ごさなければならなかった人や、「悪いけど出て行ってくれ」と言われ、支援物資も来ない家で過ごすことになった人もいたのです。

多動の障害児の家族は、避難もできず、二人とも目に障害のある夫婦が、避難所では無理なので自宅に住んでいて、物資の配達を頼んでも聞き入れてもらえなかったり、と津波だけではなく、原発の事故による避難の人たちも、大変でした。

「みんなが大変な時なのだから、頑張らなくちゃ、頑張れ、頑張れと言われて、みんなみんなお腹の中いっぱい涙をためているのだと思う」といっていました。

新しく暮らす場を探したりする人もいたり、仮設住宅に入っても、バリアフリーになっていないので大変です。90代のおばあさんが、高齢の娘の障害者を介護する姿が心に残りました。

* * *

私は、毎年いろいろなところの防災訓練にも参加しますし、テレビなどでみたりしても、体育館ではだめだと思う。私たちのような重い障害者たちは、寝たきりの人もいるし、介護する人も含めた場所があります。できれば、無理かもしれないけれど避難所の隣や1～2分のすぐ近いところに別の避難場所があるといいとおもいます。食べ物などは、皆と同じでも工夫すればよいけれど、眠れる場所は絶対に必要です。

よくわかりませんが、知的障害の人なども、落ち着ける部屋がないと、困るのではないかとおもいます。

もうひとつは、助け合う仲間を作りたいと思います。今もたくさん応援してくれる人はいますが、皆も大変なので、そんな時でもちょっと気にかけて連絡し合ってくれる人たちがいれば安心ですね。

* * *

小さいときは、地震は怖いと思いませんでしたが、この頃は、ちょっと揺れるたびに心配するようになりました。私たちは、自分では、動けませんから.....

大原 友子

お手伝いいただき、テントやテーブルなども拝借して、とても感謝しております。年々参加する方たちも増えてきました。



↑ リサイクルの衣料品は宝の山

↓ 手作り品・食品～ 焼きそば NO.1



↑ ホーム前の駐車場を拝借し提供品の販売

↓ 小さいお客様もいっぱい



隣りに移転してきた「作業所かしの木ホーム」の皆さんも一緒に出店。メンバーの自主製品が良く売れました!! →



今月の俳句

(よつばホーム) 高島勢津子

花桃を ゆらして通る

春の風

春うらら 小鳥さえさえずる

ひよりかな

緑道の 川のせせらぎ

気持ちよく

夕暮れの あかねに染まる

八重桜



↑ おでんやコーヒーはいかがですか!

ら当日のスタッフまで、絶大なご支援をいただいたことは、忘れてはならない歴史だと感謝しております。

当日のスタッフと障害者・職員たち合わせて400人分の昼食もご寄附とボランティアさんによるおにぎりや調理でまかなわれてきました。まきで炊き上げたご飯のおにぎりは、800個余り、そのおいしさには定評があります。

活動ホーム「しもだ」も、2001年強化型へ移行、やがてNPO法人となり、2011年、現在のNPO法人「げんき」へと変えていく中で、一定の安定と発展をしてみましたが、このバザーを中心とした地域の取り組みは、今も変わることなく大きな支えとなっております。

この支えの中から、重度障害者たちの暮らすグループホームの歩みも始まったのでした。



□港北区新吉田町に暮しの場を...

試行事業を支えてくださったのも、このNPO法人「地域で生きる障害者を支える会」設立に賛成してくださったのも、まずは、下田町をはじめ日吉地区のみなさんでした。

新吉田地域の皆さんへの、ご紹介や、その後のご支援につながる端緒を開いていただいたのもこの「支える会」の皆さんで、その後はこの通信でご報告してきたとおりです。

当時はまだ、横浜以外の地域でも、障害者の施設建設には、反対運動もありましたが、重度重複の人たちの将来を考えて、けして後戻りのできない事業でしたので、ずいぶん慎重にし、いろいろな方にお世話になりました。

開所にこぎつけた時には、当時の町会長さんが新吉田西部町会の隅々まで、主だった方のお宅をご案内下さりご挨拶させていただいたのをおぼえております。

* * *

その後、さっそく年が明けて3月に新吉田地域の交流バザーにとりくみました。地域の中で、住み暮らしていくことのうれしさが、形となって現れるように...

やがてできた第2館目のグループホーム、第2よつばホームは、全員が障害程度区分6（最重度）という重い重複障害者ですが、地域の皆様に見守られて今があることに感謝しております。



新吉田町地域交流バザーの実施 少し寒かったけれど大盛況

—地域作業所「かしの木ホーム」と共催—
今回の地域交流は、去年は荒天で、一昨年は東北大震災の直後のことで中止したので、2年のブランクがありましたが、無事開催することができました。新吉田地区社会福祉協議会からと地元西部町内会からボランティアの皆さんに